

パブリックコメント手続き結果報告

「白馬村観光地経営ビジョン（案）」についてのパブリックコメント結果を公表します。

令和7年12月25日から令和8年1月23日まで村民の皆さまの意見（パブリックコメント）募集を行った結果、4名の方から24件のご意見をいただきました。

村民意見に対する村の考え方（意見内容）について

- ・本ビジョン（案）に対するご意見以外につきましては、今回のパブリックコメントでは村としての具体的な方針や考え方を示すことは控えさせていただきます。今後ご意見を参考にしながら検討してまいりますので、ご理解をお願いいたします。
- ・類似する意見については、集約させていただきました。
- ・意見内容につきましては、要旨とさせていただきますので原文とは異なります。

【計画（案）に対する意見の対応区分】

- A：計画案に反映されているもの
- B：意見を踏まえ、計画案の修正をするもの
- C：意見として承ったもの

計画（案）に対するご意見としていただいたもの

| | 意見内容（要旨） | 村の考え方 | 対応区分 |
|---|--|--|------|
| 1 | 観光客や村民の、交通に関する満足度には注意がいると思う。特に白馬 - 長野間のバスには、かなりの積み残しがあるのではないかと感じている。 (これはバス会社のマターだが、観光客や村民の不満は行政にも行くと思う。) | P40, 41 ・ご意見の通り村民にご負担がかからない施策をする必要があると考えており、交通政策関係につきましては、基本戦略 1-1 に記載をしている通り、住民及び観光客双方にとって利便性と回遊性を高める取り組みを進める内容となっています。また、白馬村地域公共交通計画（令和7年3月）において具体的な白馬村の交通政策を記載しているところですが、個別具体的な取り組み内容の評価については、観光地経営会議の中で協議し、結果を公表していく予定です。 | A |

| | | | |
|---|--|---|---|
| 2 | <p>本ビジョンは誰を対象にしているのか、ビジョンの範囲が広く総花的なのはしかたないかもしれないが、基本戦略が4つもあり、その細目が18個もあるというのはさすがに多すぎると思う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・対象につきましては、推進体制に記載のとおり、事業者、住民、来訪者、DMO（観光協会を含む）及び行政です。日本版持続的なガイドライン（JSTS-D）では、特定の人に限定せず、幅広い関係者の参画を前提とすることが示されており、それに準拠しています。 ・本ビジョンは、持続可能な観光地経営の実現に向けた施策を総合的かつ計画的に推進することを目的とするものであり、今後は本ビジョンに基づき、各事業者等が具体的な計画や行動指針を策定し取組を実践し、地域全体で戦略の実現を進めていくものとなります。 | A |
| 3 | <p>P24 白馬村観光地経営計画の取り組みの評価は示されているものの、その評価に至った要因分析が不十分である。統計データの取得・蓄積が低調だった理由が検証されていないまま、次期推進体制でデータ分析を担うと記載されており、同様の課題が繰り返される懸念がある。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・第2章では、白馬村の観光の現状と課題について提示しているものになりますが、評価に至った背景や要因については、観光地経営会議の中で協議を行っています。詳細は白馬村行政公式ホームページ（白馬村観光地経営会議）をご覧ください。 ・また、統計データの取得については、本ビジョンにおける指標にも記載しているとおり、優先的に取り組む項目を定めた上で、取得方法の検討と併せて、今後、計画的に取り組みを進めます。 | C |
| 4 | <p>P28 目標像について、リゾート地としての魅力を追求する旨の記載であるが、地域住民がリゾート地に住んでいること、住み続ける事を理想としているのか本資料からは読み取れない。また「白馬らしさ」についてもリゾート地としての「らしさ」であって、地域としての「白馬らしさ」は何かの分析と定義が必要ではないか？住む人を第一義に考えるべきではないか？</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・本ビジョンは、自然環境・地域社会・産業経済の適切なバランスを保ちながら、現在の観光需要を満たしつつ、将来世代もその価値を享受ように管理・運営されている持続可能な観光地を目指すものになります。地域としての白馬らしさについては、第6次総合計画に記載しますのでそちらをご覧ください。 | A |
| 5 | <p>P32 CO2 排出量について、10年近く前の数値を現状値と出されても何の参考にもならない。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・現状の白馬村ゼロカーボンビジョン（令和2年2月）策定時に使用している数値となります。温室効果ガスの取得手法については、策定以降、様々な手法による取得も可能となっています。今後は、より最適な手法による数値の把握を検討しつつ、最適な比較評価のあり方を研究してまいります。 | C |
| 6 | <p>P 1 「白馬村は、白馬岳をはじめとする北アルプス白馬連峰に抱かれ、登山やスノースポーツのフィールドとして圧倒的な資源を有しています」とあるが、“圧倒的な資源を有している”ことが”豊富な観光資源を有している“わけではないことを認識すべき。白馬村は極端な季節変動と、それに連動した収益体質であり、観光地としての資質の”幅“は極めて狭いと言える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ご意見として承り、今後の施策に反映できるよう努めてまいります。 | C |

| | | | |
|----|---|--|---|
| 7 | P1 「特定の期間や地域への観光客の集中といった課題」は、前回の計画の時点から指摘されている事項である。それを記述した方が良い。 | ・ご指摘の通り、前回から指摘されている事項となります。一方で、近年のインバウンド需要の急伸に伴い、改めて課題がより顕在化している観点から、他に記載した事象と同列の取り扱いとして記載しています。 | C |
| 8 | P1 「地域一丸となってそれぞれの役割を果たすことで」とあるが、ビジョン（案）を読む限りこの結論に至るまでの考察が記述されていないと思われる。 | ・p24 から p26 にかけて、現計画における取組結果の評価と、現状を踏まえた課題と脅威を記載し、本ビジョンで取り組む方針を記載しています。 ・その上で P29、P53 において、事業を推進する当事者や推進体制を記載しています。これらにより、地域に関わる全ての者が役割を果たす必要があるものとしています。 | A |
| 9 | P16 「温室効果ガスを」の「温室効」も赤字にした方がいいのでは。 | ・記載に誤りがありました。赤字に修正しました。 | B |
| 10 | P17 サステナブルは（案）において重要な概念であるので、22P に内容が記載されていることを、17P に注意書きで記載した方が良い。 | ・P22 に記載されている内容は主に JSTS-D の説明となります。「サステナブル」についての説明は別紙で用語集として示します。 | B |
| 11 | P19 「日本人は人材不足やアナログな文化や価値観の定着などが課題」とあるが、この命題については「真」であるかどうかは難しいがどのように考えるか。別の表現がいいのでは。 | ・出展に記載した総務省（2024）「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究」に当該表現で記載されているものであるため、そのまま使用したいと思います。 | C |
| 12 | P23 SWOT 分析についての説明や注意書きが必要ではないでしょうか。 | ・注意書きを加えました。 (SWOT 分析は、統計データや関係者からの意見等を踏まえた現状認識の整理を目的としたものであり、分析結果は今後の環境変化等により変動する可能性があります。) | B |
| 13 | 23P 内部環境のプラス要因の「宿泊税導入による財源の増加」は、観光ビジョン（案）の目的を達成するための特定財源を意味するのか？ | ・経営ビジョンの基本戦略実現に向けた取り組みは、白馬村持続可能な観光地経営に関する条例（令和 7 年白馬村条例第 1 号）にもある通り、宿泊税を特定財源とする活用事業になり得ます。 | C |
| 14 | 23 P SWOT 分析 にある“弱み”＜冬とそれ以外の季節との繁閑差＞の本質は「観光資源の多様性が劣る」ことだと考える。 パウダースノー以外の資源に着目すると例えば以下のような弱みがある。 | ・ご意見として承りました。そうした弱みがある点を認識し、今後の施策に役立ててまいります。 | C |

| | | | |
|----|---|---|---|
| | <p>【避暑地として】しかじょう盆地という特性上、気温が上がりやすく、夏の過ごしやすさは、高原地帯を有する浅間山麓、八ヶ岳山麓等より遥かに劣る。もはや心地よく夏を過ごせる地ではなくなってきている。</p> <p>【山岳】白馬、唐松、五竜周辺は、キレットにより分断されており、誰もが楽しめる表裏銀座のような壮大な縦走路に位置していない。</p> | | |
| 15 | <p>23P 「飲食等のキャパシティ不足」の等は何か。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 飲食だけでなくスーパーの品薄になる状態や「二次交通の脆弱」とも被る部分がありますが、特定の時間に利用者が集中することによるタクシー不足状態等別の分野においても、特定の地域・季節ではキャパシティ不足が指摘されている現状を踏まえ、「等」という表現を用いています。 | A |
| 16 | <p>23P 「農地の減少」がマイナス要因であることは理解できるが、地元産農作物に関するのマイナス要因なのか、有給荒廃農地による景観のマイナス要因なのか解釈を伺いたい。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元農作物と、農村景観の減少の両側面を含みます。 | C |
| 17 | <p>26P 「乱開発が進み、白馬らしい雰囲気なくなる」の中で「乱開発」という限定された意味を持つ言葉でない方がよい。 また、「白馬らしい雰囲気」は解釈が多様化と思う。他に良い表現はないか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「乱開発」については、住環境や自然生態系の保全に配慮せず、無計画に行われる開発のこととして辞書等に記載され、広く用いられている言葉であるため、このままの言葉とさせていただきます。 ・ 「白馬らしい雰囲気」については、その解釈は様々であるものの、村民憲章や各種計画、条例等において示されている内容を総合的に捉えたものを「白馬らしさ」と表現しています。 | C |
| 18 | <p>26P 地価や家賃の高騰により「住民が住めなくなる」は「住民が住みにくくなる」の方がよい。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ ビジョン(案)内では、課題に対処できない場合の最悪のシナリオを想定した表現としていますので「住民が住めなくなる」と表現しています。 | A |
| 19 | <p>26P 「生活圏の環境整備」や「登山道等の環境整備強化」についてはそれぞれ別の性格を帯びた項目あると思うので、「生活圏の環境整備」と「登山道等の環境整備強化」にすべきではないか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「生活圏の環境整備」と「登山道等の環境整備強化」に変更します | A |
| 20 | <p>28P 四季・エリアごとにバランスよく来訪者が訪れている。は非常に難しい目標である。「バランスよく」は何を意味しているか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 10年後の白馬のなりたい姿について、観光地経営会議の中で委員から頂いた意見を記載しています。ここでいう「バランスよく」は、来訪者数を指しており、地域の受け入れ可能数や事業者の必要来訪者数を勘案する中で、特定の時期や特定の場所に来訪者が集中することにより、環境や地域住民に負荷がかかることのないような来訪者の状態を「バランスよく」と表現しています。 | C |

| | | | |
|----|--|--|---|
| 21 | <p>28 P このページに書かれている“ethical な”という言葉は重要なキーワードだと考える。ethical な客層を求めるのであれば、まず、受入側が ethical に行動する必要があるのではないか。</p> <p>29 ページに【来訪者にとって】<できるだけ地元のものを購入する>、とあるが【観光産業にとって】<利益率・生産性の高い観光産業の実現>として、コスト重視で輸入食材や他県の大量生産品を使う様では、説得力がない。</p> <p>以下のような行動につなげる施策が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ethical な飲食業者なら地産地消をするだろう ・ ethical なスキー場経営者なら深夜に煌々と明かりをつけて、騒音を出ながらゲレンデ整備をすることで、野生動物の生活を脅かすようなことはしないだろう。 ・ ethical な策動業者なら、廃業したスキー場に策動設備を放置しないだろう ・ ethical な住民なら異文化から来た来訪者が好ましくないふるまいをした場合、その社会的、文化的背景を知ろうと努力するだろう | <ul style="list-style-type: none"> ・ 【観光産業にとって】の部分に、「域内調達率の高い観光産業の実現」を追加します。また P44 に、エシカルに関連する要素を追記します。エシカルはご指摘のとおり重要な視点であると捉えているため、成果指標の評価と照合しつつ、要因分析の考え方の参考とします。 ・ 日常であり使用されていない言葉や幅広い意味を持つ言葉については用語集に記載いたします。 | B |
| 22 | <p>41 P 「住民の暮らしの豊かさにもつながる観光振興」とあるが、これは真逆で「観光振興は住民の豊かな暮らしの上に成り立つ」と考える。世界にある様々な貧しい地域（都市部にあるスラムは除く）にある観光地に行ってみると感じるの、儲かれば何でもありの世知辛い観光業者の実態だと思う。住民が豊かに暮らす観光地だからこそ「同じ地で同じ時間を共に過ごしたい」と考える来訪者が増えるのではないか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 主体をどこに置いた表現とするかの言い回しに対しのご意見として承ります。 ・ 上記4で回答した白馬村にとっての目標像の記載のとおり、来訪者、産業、地域社会、自然環境のそれぞれの主体が、関係者間相互のニーズを満たしつつ最適なバランスを保つことが重要と位置付けているところです。 | C |
| 23 | <p>基本戦略1~4 「食のイメージが薄い」、「地域文化」、「景観への配慮と充実」の記載があるが、戦略としては薄い。農業、林業、住民生活そのものと関係が深いので、住民との連携がなくてはならないものとなっている。これらを含めた戦略を落とし込んで、もう一度戦略を構築し直すか、または宿泊税を充てるかどうかは別としても、別の計画、戦略を構築する方が良いと思う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 本ビジョンは、村民や観光関係者が共有の認識を持ち、今後の目指すべき将来像など、次世代を見据えた観光地域づくりの方向性を示すものになります。ご指摘のとおり、実施にはさらに踏み込んだ計画や戦略が必要でありこのビジョンに沿って今後事業者や関係者が具体的な取り組みをそれぞれが主体的に進めていくことになります。 | A |
| 24 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的にコンサルが使う常套句（特に英語単語）がそのまま残されており、全ての関係者に伝わらないと思う。日本語では「行間を読む」というが、英単語の場合は単語の辞書上の意味以外の幅広い意味をもつ場合がある。例えば ethical は辞書上では倫理上の、道 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 行政計画の位置付けとして、関係する皆様に伝わらない表現、誤解を招く表現及び計画として不適切な表現は、観光地経営会議と今般のパブリックコメントを通じて最終確認を実施しているところです。日常であり使用されていない言葉や幅広い意味を持つ言葉については | C |

| | | |
|--|---------------------|--|
| <p>徳上の意味だが、この言葉には、地球環境への配慮、人や社会への配慮、地域への配慮、動物への配慮の意味を含めて使われる場合がある。この様に単語の向こう側にある意味は、受け取る人、時間経過によって変異してしまうものなので、多少、くどく成っても、不変な言葉で書くことが重要だと思う。</p> | <p>用語集に記載いたします。</p> | |
|--|---------------------|--|

° 計画（案）以外に対するご意見としていただいたもの

意見内容（要旨）

○白馬村観光局に関すること

- ・観光局と観光課の違いがよく問題になりますが、観光局の名称を変えるというのはどうでしょう？一般の村民は観光局が何をしているか知らない。
- ・二つのDMOの存在意義がわからない。推進体制の記述もそれぞれの現状やっている事とやりたい事について、言い方を分けて記載しているだけの様に感じる。
- ・資料には、白馬村観光局の出典データがほとんど見られず、データ分析に必要なスキルや体制が整っていないのではないかという疑問があり、他の項目についても同様の問題が指摘できる。